

様式(細則 5-2)

令和8年6月1日

浜田市議会議長 澁谷 幹 雄 様

議員名 芦 谷 英 夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

- 1、視 察 先            益田市（益田市人権センター）
- 2、視察事項            石見神楽の日シンポジウム「益田の石見神楽の歴史と変遷」
- 3、視察の目的（市政との関連など）日本遺産の認定後の地域振興、石見神楽保存伝承拠点施設整備などの課題が横たわり、石見神楽の新たな可能性の模索、振興施策などの調査研究
- 4、期      日            令和8年5月30日（土）
- 5、経      費            ガソリン代                    2,000円（浜田市⇄益田市往復）
- 6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など 視察の目的に掲げたことがらについて市政に反映すべく議員活動する
- 7、視察の概要            別紙のとおり



## 石見神楽の日シンポジウム「益田の石見神楽の歴史と変遷」

令和8年6月1日

- 1 日 時 令和8年5月30日（土）13時～15時
- 2 会 場 益田市（益田市人権センター）
- 3 シンポジウム パネラー 戸部和久 歌舞伎脚本家・演出家  
神田惟佑 一般社団法人MASUDA カグラボ万雷代表  
コーディネーター 恵木勇也 御面屋恵木舞工房

### 4 概 要

- ① 「万雷」はMASUDA カグラボが主宰する若手の有志による舞手集団で、令和2年に石見神楽の保存と活用に向けた将来ビジョン策定を目的として結成され、3年には提言書を市に提出、第1回「MASUDA 石見神楽WEEK」を開催し、5年には社団法人化している。3年5月益田市は「石見神楽の日」を制定している。
- ② 万雷は7年7月には大阪・関西万博での公演、同11月にはグラントワで石見神楽創作舞台「魂（みたま）神楽モモチヨロズヨ」を公演しており、歌舞伎脚本家・演出家の戸部和久氏が作・演出を担当し、歌手小林幸子さんは、神楽の切り替えや新たな演目の始まりなどで4曲を歌い、約1,100人が入場している。
- ③ この公演では、発光ダイオード（LED）を使った「光る大蛇」の照明演出、舞台には華やかな光の映像も写し出し、暗い舞台での幻想的な神楽、伝統と斬新さが融合した迫力ある新感覚の演出、進化した石見神楽の創作舞台が繰り広げられた。
- ④ これを振り返り、石見神楽は地域に根差した郷土芸能として受け継がれ、近年、その表現力や舞台性は中央の演劇・舞台芸術の創作者や関係者から注目を集めており、石見神楽を、守ることと創ることの両立、石見神楽らしさとは何か、変えてよいもの変えてはいけないもの、などこれからの石見神楽のあり様について議論された。
- ⑤ 石見神楽を超えた新たな分野、新しい趣向に取り組むことで、新たな発見とこれまでにない進化があり、石見神楽の無限の可能性があり、石見の地域文化として発展させ、地域に根づかせることが重要である。
- ⑥ この日は創作神楽「万雷」が演じられ、石見神楽の四神のように4人の舞手が舞うもので、カグラボ独自の取り組みとして紹介された。

### 5 所 感

- ① 創作神楽「万雷」は、石見神楽の四神をもとに創作されたと考えられ、このような新しい神楽は石見各地域にあり、石見神楽の四地域、大田は出雲神楽の影響を色濃く残し、那賀邑智は大元神楽と六調子神楽、浜田江津は八調子神楽、益田以西はさらに新しい神楽となっており、石見神楽の振興にこれら歴史と伝播進化を踏まえる必要がある。
- ② 浜田市の1社中が舞う「紅葉狩り」（面をつけない化粧舞）は、芸北神楽、広島神楽から伝わったものであることから、石見神楽が広域的な伝播と進化を繰り返したことをあらわしており、県域も超えた連携なども認識する必要がある。
- ③ このように石見神楽は大田市以西に広く伝播し、それぞれ独自に神楽を伝承し地域で生まれ、オール石見としてのまとまり、協働した取り組みなどが弱く、石見神楽広域連絡協議会（会長 浜田市長）では誘客促進、情報発信、環境整備を柱として進めるとしており、それを進めることで浜田市の果たすべき役割も大きい。

- ④ 市の石見神楽保存伝承拠点基本構想では「石見神楽のすべてがわかる、浜田市民が誇れる拠点」とし、収集と保存、調査と研究、展示、教育と普及、交流などの機能を示し、拠点整備を進める方向性を示しているが、市の明確な方向性が打ち出されず、市政の大きな課題となっている。
- ⑤ 「石見神楽を創り出したまち」を自認する浜田市として、保存や伝承が前面に出ており、神楽を観る人にとってどうか、どう神楽を観せるか、どう観光商品化するか、観光客誘致などをどう進めるか、拠点整備をどう進めるかなど、具体的な施策を打ち出す時に来ており市議会としてその責任の一端はある。
- ⑥ 石見神楽は日本遺産の認定を経て、地域の誇るべき伝統文化であり、地域に根づかせ市民の誇りとするよう理解を深め、神楽後継者の育成、子ども神楽の振興や教育への取り入れ、神楽産業技術者の伝承、神楽文化遺産としての保存と伝承などの課題が残されている。

—以上—